

5. 15 沖縄平和行進参加報告書

東北地方青年婦人部 部長 薄井 栄人

沖縄平和行進に参加しました。感染症の影響により、参加規模や内容変更、感染対策を行っての開催で例年通りの行進ができませんでしたが、3年ぶりに全国の仲間たちと現地で集まり運動を実施できました。

今回は学習会・視察の時間が多く取られていた中で、新たに知ったことが多くありました。きっと今年参加できたからこそ、沖縄で起きた地上戦、敗戦から本土復帰までの歴史、本土復帰から今日までの歴史がより深く学べたと思います。

平和学習会で講師の古謝氏から沖縄は本土復帰から50年経ったが復帰当初は沖縄県民が望んだ復帰ではなかったこと、また「沖縄と核」をメインに講話をいただき、敗戦後から沖縄がアメリカの統治下になり、政府から非核三原則が表明されたが密約により沖縄だけが除外され1300発もの核ミサイルが沖縄に配置されていたこと、戦争によって沖縄が背負わされた代償がどれほどに大きいものであったかを知りました。

『戦争』『核』は日本にいない。その気持ちを持って半日だけではありましたが、全国の仲間と一緒にシュプレヒコールを上げながら全力で行進を行いました。

これまで沖縄平和行進がこれほど大きい運動として続いてきた根源を今回の平和行進に参加して感じる事が出来ました。我々青年部が力を入れて取り組んでいる平和運動はすべて大きな問題と闘っています。全港湾の仲間たち、三単産の仲間たち、他労組、市民団体の人達と団結し、運動を行い後世に伝え繋げていくことが大切だと感じました。

地元に戻り、平和運動の大切さを伝え、まずは地元での運動をもう一度見つめなおし、行動して全国の仲間知ってもらう。そして一緒に闘っていける環境を作り、全国各地で起きている問題を全国の仲間たちと共有していこうと心に誓いました。

最後になりますが、沖縄地本の皆さん。開催にあたり事前準備から受け入れまで本当にありがとうございました。今後も一致団結して運動していきましょう。